

## 編集室から

私事で恐縮です。

先月上旬に、初孫が誕生し、じいじになりました。(^^;ゞ

昭和生まれのジジババに、平成生まれの母親、令和生まれの子という象徴的な三世代の誕生でもあります。

我が家には5月生まれが、丈母と私、次男の3人でした。そこへ、娘婿も5月。さらに孫娘が5月に生まれ、なんと5人目になりました。この季節は、賑やかになりそうです。

娘が徹夜で陣痛に向き合い、孫が生まれ出ようとしていた頃、私は出張で瀬戸大橋を渡っていました。

出産に際して、父親以外の男は役に立たないとの家族からの進言を受けてのことでしたが、そばに居ない分、返って気を揉みました。

聞くところによると娘の出産も軽い方なのだそうです。入院して2～3時間で出産した家内に比べるとかなり長く、付き添いは相当大変だったとのこと。「居なくて良かったよ」と言われる始末。まあかなりうろたえたでしょうから...

約30年ぶりに耳にする泣き声に「生まれたての赤子は、こんな風に泣いていたな」と懐かしく思い出しました。

動物の子は、産まれてすぐに立ち上がり、親と共に行動します。

ですが人間の子は、全くの無防備で、泣く以外の手立てを身に付けていません。お乳やおしめ、お風呂の世話をされることを当然とし、抱っこされ包み愛されなければ寝付かない赤子に触れるにつけ、人間という存在にとって「愛し、愛される」ことの重要性を改めて思い知らされています。(は)



のと  
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち

03-5537-3078

17:00～23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27

プラーザ銀座ビル地下1階

(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2019/06

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2019/06

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

## 水無月



称名滝：富山県立山町にて  
by hama

ヒトの体内を移動する液体(血液と組織液)は合わせて二十Lで、そこにブドウ糖が1g/Lの濃度で溶けています。つまり、体内で動いてエネルギー源になるブドウ糖は二十gということですから、そこに冷えた缶コーヒーを一気に飲んで二十gのブドウ糖が流れ込むと、どうなるのでしょうか。

糖尿病教室では、こんなふうの説明をしています。

四国の中央を流れる吉野川、ここに台風がやってきて水かさか二倍になるほどの大雨を降らせたといいます。このままでは図 のように、河口の徳島は洪水になってしまします。実際に吉野川は四国三郎と呼ばれる暴れ川で、数えきれないほど洪水を繰り返してきました。でも、最近は久しくおきていません。どうやって防いでいるのでしょうか？



徳島県民は当然ですが、香川県民もほぼ全員が正解を即答できます。答えはダムです。徳島が洪水に苦しめられてきたように、香川は濁水に苦しめられてきました。狭い四国ですが、降った雨は並行する四国山地と讃岐山脈の南壁に沿って吉野川に注ぎこみ、北側の香川には流れない地形になっています。私が小学生の頃は、毎年のように蛇口をひねっても水が出ない状態になりました。大きなポリタンクを持って、自衛隊の給水車に並んだものです。それを一気に解決してくれたのが、高知の山奥に作られた四国の水瓶と呼ばれる早明浦ダム(図)です。ここに水を貯めれば、台風が来ても徳島は安全です。そして大雨の

あとは日照りが続くことも多いのですが、その時はダムから徐々に放水すれば下流は常に一定の水量を保つことができます。早明浦ダムから導かれた香川用水は、水不足に苦しめられてきた香川に安定して水を供給してくれています。つまり早明浦ダムは、徳島を洪水から守り、同時に香川の濁水も解消しているのです。



この両者を可能にしているのは、水門の調節です。せっかくのダムも、水門が開きっぱなしでは洪水を防げないし、閉めっぱなしでは川が干上がってしまいます。上流と下流の水量を常にチェックして、瞬時に水門を調節するシステムが水量の安定を可能にしました。

ヒトでは、肝臓がダムの働きをしています。そして瞬時に水門を調節しているのがインスリンです。

残りが中途半端になったので、その説明は次回にして、もう少し吉野川の話をしめます。四国の中央を西から東に流れる吉野川には、かつて平家の落ち武者が源氏の追っ手を逃れて潜んだ深い谷が続いています。その谷底に露天風呂が湧いていて、昨年ですが濱さんと二人で入りに行きました。写真を見たい方は、濱さんのフェイスブックへどうぞ。ラフティングも最高で、二〇一七年には世界大会が開かれました。(写真)。



【プロフィール】  
（いがき としお）金沢大学北潟寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松でヌクヌクしています。



### 濱の起業塾 一 『立志』

前号で、社会的事業の起業において、志の深さの重要性について、触れた。

つまり、簡潔に言えば、「起業」ビジョンの深遠さのレベルが事業の成功のレベルに比例する」のである。

志の深さ：どれくらい、深い思いがあるのかに加えて、ビジョンには計4つの軸がある。

視点の広さ：どれくらい幅広く物事を観ているか  
人格の高さ：中心となる人の人柄の高潔さ  
時間の長さ：どれくらいの時間スパンで事象を捉えているか

過去にお手伝いさせて頂いた現業を振り返ると、これら4つの大きさが、起業後の成功の大きさに比例すると考えてならない。しかも、これらは、まるで四次元の体積のように、掛け算で答えが出る。つまり、どれか一つが極端に小さいと、結果も小ぢんまりとしたものになってしまうようだ。

志の深さは、その社会的事業に疑念を持つ人々の考えをやがて変え得る強さを持つ。視点の広さは、その社会事業の影響範囲を広げ、社会的影響力を高める。人格

の高さは、その社会的事業への安心感を醸して賛同者を増やし、チーム力を高める。時間の長さは、その社会的事業の普遍性を高め、事業生命を延ばし、持続性を高める。

これらの関係性により、事業の魅力が増し、利用者・来訪者が目標を超え、売上や事業の経済規模が大きくなるという結果につながっていく。

起業ビジョンの四軸の大きさと、結果の大きさが連動する所以である。

さて、この四軸を個別に視ていこう。  
「人格の高さ」は、起業家自身が、自己を自覚し、目指す高みを標榜できれば、後は徳積みを重ねていくのが最短のようだ。何が徳積みになるのか。単一の答えは無い。自分で模索すること自体も修練になるに違いない。

「志の深さ」は、その事業に対する思い入れの強さでもある。これが浅い(弱い)と、困難・障壁に直面した際に、諦めてしまいがち。起業過程では、あたかも「自己の信念を神が試しているのではないか」と思えるような出来事に遭遇することがある。むしろ、それが普通だとも言える。よしんば、事無く平穏に起業できたとしたら、事業開始後に大きな難事に当たった時、免疫が無いだけに弱く脆い。

担当科目の1年生の授業がスタートして約2ヶ月が経過した。男子比率と敦賀比率が高い。まあいい。4年ぶりに元気な導入ゼミになりそうな予感。

最近の学生は、アラ還の右肩上がり社会を前提とした思考を一顧だにせず、アラフィフがもつバブリーな幻想を親世代のノスタルジーと捉え、アラフォーの凍えるような絶望感とそこからくる画一的安定志向に興味がなく、アラサーの厭世観と楽観主義とデジタルがカオスになった世界観とも違う。

生きてきた環境と大学の状況等が少し特殊なのだ。典型的な例が、当学では2年前から始まったGPA<sup>1</sup>。優/良/可/不可のみならず点数を気にする学生と教員。劇的にとまではいえないけど意識の高い学生はフル単<sup>2</sup>かつ点を取りに来る。60点でラッキーと喜び、余剰単位捨てまくりのおじさんとは大違いの時代。

今の現役学生は、思春期に津波と原発事故と超ゆとりのお兄さんお姉さんを見せられながら脱ゆとりを駆け抜けさせられ、10代半ばからキャリア教育とアクティブラーニングを試行させられ、ソーシャルネイティブ第一世代と勝手に定義づけられ、それらのレットルや武器を活用せずともどこかに就職できる環境にあるものの、人気の会社等に入るには過酷な競争にさらされる。

一方で、悠々と若者を選んできた側が、人材不足を嘆くとともに彼らとの意識のギャップに戸惑いを隠せない時代。やりたいことよりやりたい立ち位置や関係性を主張する若者に、物足りなさを感じることも。承認欲求は確かに強いかもしれないけれど、そこに媚びた側に大したリターンは得られない。

どの世代の中でも人それぞれが基本である。それと同時にどの世代にも固有の特徴がある。少しずつ時代が変わってきているのも確かである。それを理解しようとせずに自分達基準の常識や価値観を押し付けようとしたり、これまでとこれからに自分達と同じ経験が不要で違う経験が必要だと想像できなかつたり。「最近の若者は...」とか「経験を積めばわかる」とか一方的に言う大人。なりたくないが、確実にそうなりつつあるから困ったものである。

注1：Grade Point Average 各授業の評価点をGPに変換し、単位数で加重平均したもの。

注2：履修登録した全ての単位を取得すること

先日の新聞の一面で東証一部上場企業の内50%の企業が副業を認めているようです。あくまでも調査に対して回答があった企業の話に過ぎないが。

この背景にあるのは、

- ・今後の人口縮小を前提とした担い手不足
- ・それによる税収減を解決すべく働き世代一人当たりの所得拡大
- ・消費に回る事でのデフレ脱却

をはじめとした政府の思惑があると思いますが、今後のAI時代の到来で失職者が増える可能性があるなかで、今後何を価値として生きていくかを選択するにあたっても意義がある取組だと思っています。

副業を認めている企業が想定しているメリットとしては  
社員の成長やセカンドキャリアの形成(80%)  
本業への効果(45%)

が上位を占めています。会社としても年功序列・終身雇用から、社員ひとりひとりの価値に応じた評価社会においては、メリットがある制度なんだと思います。私も個人が会社に依存せずに、人生を切り開いていくための武器となる経験/知識/資源(ネットワーク等)を蓄積することは大賛成です。

では具体的にどのような副業が人気なのでしょう？ 2018年リクルート調べ

- 1位 クラウドソーシング：特技を生かし他社から業務を受託
- 2位 サイト運営：ブログやSEO対応での広告収入
- 3位 動画配信：俗にいうユーチューバー
- 4位 投資：仮想通貨、FX、株式など
- 5位 カメラ撮影：自分で撮影した画像をフォトストックなどのサイトで販売

うーん、これって個人の成長や本業への効果になるのかなあ？お小遣い稼ぎだよ。というのが率直な感想です。だって、副業でリスクは負いたくない、休みの日にやるのだから短時間でできるものにしたい。いい悪いではなくこれ当たり前の本音ですよ。1998年を境に一人当たりの所得は減少傾向にあります。この20年で100万円近く減少しています。では前述した「人生を切り開くための働き方」には「副業」ではなく「兼業」はどうでしょう。「会社」と「会社」でもいいですし、「会社」と「個人事業」でもいいです。「川上・川下」でもいいですし、「異業種」でもいいです。「都市部」と「地方」なんか大賛成です。それを後押しするための働き方改革、例えば昼間は田舎で農業、夜は会社のデスクワークと農業体験ブログなんて働き方ももしろいですよね。それを支援できる法制度(社会保障や税制面)やインフラ整備(通信や空き家対策)であってほしいなあ。

## 『富士の国から ~大魔神のたび~』小山町長退任のお話し

静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

4月21日からブルーな気分のままだ。

小山町長選で現職が敗れる大波乱があったからだ。今や静岡県内でNO1の元気の良さを誇る町に仕立て上げた込山町長が、この日を境に町に経営者ではなくなった。代わりは隣の御殿場市役所OBで県会議員を務めてきたフツウの人だ。

静岡県を込山町長からの誘いがあって早期退職した小生にとっても後ろ盾が無くなった。そして、もう新たに仕事のリクエストが寄せられることもない。ただ、継続、今年度興さなくてはならない9つに及ぶプロジェクトを完成させなくてはならないから、最長で2年間は席を置くことになる。

しょっちゅう入室していた町長室が、がらんどろになり、4月26日に町長退任式を迎えた。町長の最後の挨拶が振るっていた。

「今朝、秘書が迎えに来て『職員の気持ちは今朝のしとしと雨のようです』と嬉しいことを言ってくれた。でも、私の心は五月晴れだ。新町長に先ほど引継ぎしてきた。

顔を合わせた時に、真っ先に手を出し握手をした。高校も、県議でも町長でもすべて私が先輩だからだ。『仕事は引き継ぐのか?』と問い詰めたところ「引き継ぐ」との返事だった。もし、諸君らがその点で困ったら、遠慮なく私のところに連絡してくれ。

平成23年に他の市町に遅ればせながら、津波被害のない内陸部の開発をすすめる内陸フロンティアを拓く県の制度により市街化調整区域の開発が可能になり、県そして公民連携で工業団地ができ、企業の進出も始まってきている。全て進出した暁には町への税収は23億円にも及ぶ。

選挙の敗因は、長年の課題で歴代首長が先延ばしをしてきた都市計画税導入を推し進めたことだ。役場周辺の家屋敷のみ持っている特に高齢者には負担でしかない。明日の百円より、今日の五十円がもった

いない。百年の計を訴えても、そこからは票は逃げた。首長になってある意味『裸の王様』になっていたではと思う。町民の感覚に疎くなってきたということだ。」

送る副町長の声は震えていた。

平成23年に就任された時は前年の大規模災害で町は沈んでいた。基金も底をつきそうだった。内陸フロンティアで次々とプロジェクトを立上げ、今や公民合わせ600haの開発が進む。民間の投資額は1000億円に及ぶ。

視察も多数来るようになり羨望のまなざしだ。この短期間で輝く町に変えたのが込山町長だ。まだ道半ばであることの無念さを深く感じる。

町長が就任された時、私は企画総務課長だった。「顔も態度も大きい、町民目線になれ」と言われたことが心に染み入っている。本当にありがとうございました。

小生ばかりじゃない、皆目頭が熱くなりっぱなしだった。役場玄関から出て行かれる時には、見送る職員一人一人に握手をされた。

込山町長は平成の田中角栄だったんだろうなとふと思った。町長に任されたプロジェクト全ての完成品をお見せできるようにするまでは、小山町で頑張らなくては。期待しててください。

写真は水害のあった愛媛県庁に代理で受けたふるさと納税1000万円程を届けた場面 昨年10月2日のこと

